2024年秋季特別展

多彩な抹茶の器 茶入

薩摩肩衝茶入 銘 忠度
［前期展示］

高台寺蒔絵棗［前期展示］

（唐物）文茄茶入［後期展示］

13世紀の日本に登場した抹茶を入れる器は、茶の湯の成立発展とともに大きく変化します。茶の湯で呈される茶が濃茶と薄茶に分化すると、抹茶を入れる器も濃茶器と薄茶器に分化し、主に濃茶では焼き物が、薄茶では塗り物が用いられるようになります。当初中国産の唐物が主流でしたが、茶の湯人口の拡大と、中国での小壺類の生産停止にともない、国産、主に瀬戸地方で茶入が生産され、次第に京都など他の地域でも生産されるようになります。

唐物茶入は15世紀頃から形態による分類が行われていましたが、国産の多くを占めた瀬戸茶入では、生産時期と形態を組み合わせた窯分けと手分けによる分類が行われ、松平不昧が『瀬戸陶器濫觴』を発刊するにおよび瀬戸茶入の分類法が確立しました。しかし近年瀬戸地方で発掘調査が進展すると、不昧が行った生産時期分類は否定され、瀬戸茶入の多くは17世紀前半に生産されていたことが判明しつつあります。

今回はそうした発掘調査結果を踏まえながら、茶入を唐物・瀬戸・国焼に分け、従来の分類には拘らず産地別に展示します。さらに前期は地階展示室にて多種多様の塗り物茶器も陳列しますので、じっくりご鑑賞・お楽しみ下さい。

前期	後期
9月7日（土）―10月20日（日）	10月26日（土）―12月8日（日）

※10月21日（月）～10月25日（金）は展示替のため休館

瀬戸茶入 銘 松島［後期展示］

瀬戸茶入 銘 藻塩［後期展示］

（唐物）長谷川文琳茶入
［後期展示］

主な展示作品

［前期］ 種村肩衝茶入・織部茶入 銘 餓鬼腹・仁清 長肩衝茶入 銘 存命・紹鷗在判大棗・利休大棗・高台寺蒔絵棗・初代中村宗哲作 凡鳥棗・原羊遊斎作 秋虫尽蒔絵棗 等

［後期］ 上杉瓢箪茶入・長谷川文琳茶入・瀬戸茶入 銘 思河・瀬戸茶入 銘 藻塩・利休茶入 銘 地蔵・新兵衛肩衝茶入・北野茄子茶入の次第 等

地階展示室

館蔵品展 ◆「多彩な抹茶の器　茶入」 9月7日（土）～10月20日（日）

個　　展 ◆茶盌―深淵をのぞく― 内村慎太郎 展
10月26日（土）～11月4日（月）

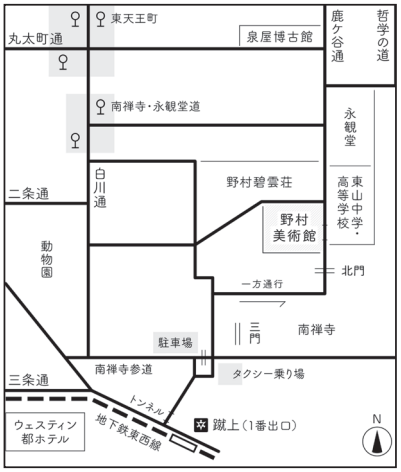
◆「笈の小文」追うて… 村田浩一郎 茶垸展
11月6日（水）～11月10日（日）

◆【歌のかたち】田端志音
11月12日（火）～11月24日（日）

◆狂草窯 Le four des “Herbes folles”
フランス人陶芸家エマニュエル・アレクシア個展
11月26日（火）～12月1日（日）

◆［朴相彦陶磁器展―梁山法基里の土でつくる―］
12月3日（火）～12月8日（日）

【※各個展最終日は、16:00で終了致します】



アクセス
市バス／京都駅・四条河原町・三条京阪前より
⑤系統「南禅寺・永観堂道」下車、徒歩5分
地下鉄／「蹴上」駅下車、徒歩10分

呈茶席 椅子席の茶室にて上生菓子付き抹茶を1客700円でお召し上がりいただけます。（10:00－16:00）

X　Instagram　YouTube

野村美術館
Nomura Art Museum